

「ヨエル書」 יוֹאֵל — 私訳と注解

1:4

ハーアルベ	アーハル	ハッガーザーム	イエテル
הָאֲרָבָה	אָכַל	הִנְזָם	יֵתָר
いなごが	食べた	食い尽くすいなごの	残りは
名女単冠	動完3単	名詞男単冠	名男単
ハッヤーレク	アーハル	ハーアルベ	ヴェイエテル
הַיָּלֶק	אָכַל	הָאֲרָבָה	וַיֵּתָר
バツタが	食べた	そのいなごの	そして、残りは
名女単冠	動完3単	名詞男単冠	名男単接
ヘハーシール	アーハル	ハツィエレク	ヴェイエテル
הַחֲסִיל	אָכַל	הַיָּלֶק	וַיֵּתָר
食い尽くすいなごが	食べた	そのバツタの	そして、残りは
名詞男単冠	動完3単	名女単冠	名男単接

〔私訳〕

- かみ食らういなごの残りは、いなごが食べ、
- そのいなごの残りは、バツタが食べ、
- そのバツタの残りは、食い尽くすいなごが食べた。

〔注解〕

- ここには四種類のいなごが記されています。すべて冠詞付です。

	原語	ヨミ表記	新改訳	新共同訳	口語訳	岩波訳	バレルバロ訳
1	גָּזָם	ガーザーム	かみつくいなご	かみ食らういなご	かみ食らういなご	噛み食らう蝗	ガザム
2	אֲרָבָה	アルベ	いなご	移住するいなご	群がるいなご	渡り蝗	いなご
3	יָלֶק	イエレク	ぼった	若いいなご	とびいなご	跳び蝗	エレク
4	חֲסִיל	ハーシール	いなご	食い荒らすいなご	滅ぼすいなご	食い荒らす蝗	バジル

- ヨエル書においては「いなご」は重要な語彙です。それゆえ、この「いなご」について調べておきたいと思います。『聖書動物大事典』(国書刊行会、初版2002年)には「イナゴ、バツタ」について26頁が割かれ、そこには専門的な説明が詳細に記されています。そこで取り上げられている「いなご」を参考にしながら、順次、八種類の用語を紹介すると、次のようになります。

①「アルベ」(הָאֲרָבָה)、貪食で最も破壊的な被害を与える。またその増殖力が特徴。「アルベ」という語は「増える、非常にたくさんいる」を意味する「ラーヴァー」(הַרְבָּה)に由来し、大規模な荒廃を引き起こすすべてのバツタを指す意味で用いられているようです。専門的には、翅のある直翅類。聖書の中では最も多く登場する語彙です。24回。イスラエルの民が出エジプトする前に、エジプトに下された第八番目の災害がいなごの大群によるものでした。そのいなごの大軍が「アルベ」(הָאֲרָבָה)です。

②「ハーガーヴ」(חֲגָו)も壊滅的な大被害を与えるバッタの種を表わします。第四回目の脱皮後、ただちに飛び立ち、太陽を覆うほどになる。多くのバッタの総称とも言われます。聖書では、レビ記11章22節、民数記13章33節、Ⅱ歴代誌7章13節、伝道者の書12章5節、イザヤ書40章22節に登場します。

③「ハルゴール」(חֲרָגוֹל)は、レビ記11章22節にのみ登場します。「それらのうち、あなたがたが食べてもよいものは次のとおりである。いなご(אַרְבֵּה)の類、毛のないいなご(סְלֵעָם)の類、こおろぎ(לְחָגוֹל)の類、ばった(בַּתּוּחַ)の類である。」とあるように、三番目に記されている「こおろぎ」の類いです。22節にある四つの種はみな、「翅足を持ち、それで地上を飛び跳ねる種」です。これらはみな食べることが許されています。

④「サルアーム」(סְלֵעָם)はレビ記11章22節にある二番目に記されている「毛のないいなご」の類いです。新共同訳では「羽がないいなご」と訳されています。レビ記11章22節にのみ登場します。

⑤「ガーザーム」(גָּזָם)は、ヨエル書1章4節、同2章25節、アモス書4章9節に登場します。バッタの幼虫(青虫、毛虫、いも虫)でイチジクやオリーブなどの果樹の葉を食べて被害を与えます。

⑥「ゴーヴ」(גּוֹב)は聖書の4箇所登場します。Ⅱサムエル21章18, 19節、ナホム書3章17, 17節。これは大形のバッタの幼虫期、ないしは若虫期のものと言われます。ナホム書3章17節には「あなたの衛兵は、いなご(אַרְבֵּה)のように、あなたの役人たちは、群がるいなご(גּוֹב גּוֹבֵי)のように、寒い日には城壁の上でたむろし、日が出ると飛び去り、だれも、どこへ行くか行く先を知らない。」とあるように、「ゴーヴ」(גּוֹב)だけでも「群がるいなご」を意味しますが、それが二重に重ねられています。幼虫期や若虫期のバッタは成虫以上に食欲は盛んで、大きな被害を与えるとされています。この「ゴーヴ」のイメージが、ナホム書では神の「衛兵」の比喩として用いられています。

⑦「イエレク」(יֵלֶק)は、聖書で9回(詩篇105:34、エレミヤ51:14, 27、ヨエル1:4, 4、2:25、ナホム3:15, 15, 16)登場します。草を食い切り、なめ尽くす、バッタの幼虫です。ヨエル1章4節に「いなご(アルベ)が残した物は、ばった(イエレク)が食い」とありますが、翅のあるアルベが飛び去ったあとに、その幼虫が現われて残りを食い尽くすことは、実際にあり得る話です。

⑧「ハースィール」(חֲסִיֵּל)は新改訳では「食い荒らすいなご」と訳され、聖書では6回(Ⅰ列王8:37、Ⅱ歴代6:28、詩篇78:46、イザヤ33:4、ヨエル1:4、2:25)登場します。この「ハースィール」は、ある種のバッタ、その幼虫であるとされています。いずれにしても、訳語の「食い荒らすいなご」から連想されるのは、大喰らいのいなごの幼虫ということになります。

●このように、一口に「いなご」と言っても、多くの種類があることが分かります。ヨエル書1章4節に登場する四種の「いなご」とは、順に以下の通りです。⑤の「ガーザーム」(גָּזָם)、①の「アルベ」(אַרְבֵּה)、⑦の「イエレク」(יֵלֶק)、⑧の「ハースィール」(חֲסִיֵּל)。

●ヨエル書の「いなご」は、私たちの想像を絶するようないなごの大軍です。砂漠と草原地帯の乾燥した平原で、一定の熱さと湿気があり、ある条件を満たすと、突然爆発的にその数を増し群れとなって周囲に広がって行きます。そして雲のように他の地域に移動しはじめるのです。何千万、何億といういなごが雲のように来襲することで大災害をもたらすその経験がベースとなって、神の警告的な預言がなされているのです。いなごの大軍の来襲に例えられるのは「力強く、数えきれない国民」(1:6)の来襲です。神はこれをご自身の民を矯正させるための道具(杖)として用いられます。それはアッシリヤ、バビロン、ペルシャ、ギリシア、ローマです。そして最後は反キリストによる勢力です。神のご計画において、歴史の中で登場する強国はすべて、終わりの時に来襲する反キリストの型なのです。